

## ともに育ち 学びあう活動—実践編

委員会をはじめ、年間を通して活動する組合員を“むすび”ます。活動の紹介、情報発信の場をめざします！



## ～2020年度保育スタッフ交流会～ 8月から保育再開しました

2020年10月23日～11月7日、5会場72名の参加で開催された「2020年度保育スタッフ交流会」。新型コロナウイルスによる活動自粛に伴い、保育スタッフ研修会も中止になりました。今回は、中止になった研修会と合わせての内容となり、保育現場における感染症防止対策などを確認し共有した交流会となりました。



### withコロナでの保育

「パルシステム東京の保育制度は組合員が組合員のために助け合いで行っている素晴らしい制度で、他の生協からも注目されています。このような状況下でも多くの方に保育スタッフとして継続登録していただき感謝いたします」という組織部担当者からの挨拶で始まりました。

活動再開前に、今年度登録した126名の保育スタッフ全員に、保育再開時に登録を継続していただけるかのアンケートを実施。保育再開に向けて73%が継続の意思を表明し、保育に臨みます。

交流会では「withコロナの保育」をテーマに

- ①保育ルールの変更や補強について
- ②注意事項の確認
- ③変更になった書式の説明
- ④8月から再開した保育の具体例発表

などがありました。



### 再開後の保育現場から

「定例会の保育で、久しぶりに会ったお子さんに“大きくなったねー！”と…思わず声を掛けました」との声にうなずく保育スタッフの皆さん。早く、にぎやかな子どもたちの声を聴きたいといった思いは共通のようです。

各会場では、8月から再開した保育の報告がありました。

- ・会場によっては、保育室の使用禁止やおもちゃを撤去しているところもあるので事前の確認が必要。
- ・備え付けのおもちゃなどの消毒にかなり手間取るため、



手洗いの歌（キラキラ星の替え歌）で参加者全員マスクをしたまま、歌いながら手洗い体操をしました（2020年11月6日新宿本部会場にて）



事前準備の時間と十分な消毒液が必要。

- ・除菌しやすいプラスチック製のおもちゃが助かる。
- ・3～4歳くらいだとマスクに慣れてはきているが、遊んでいる最中に外れることがある。
- ・常に除菌シートを持ちながらの保育だった。
- ・おやつがないことは、意外と大丈夫だったが、切り替え時間がないので、ボール投げや走ったりと、体を動かす遊びが多くなった。
- ・お子さん1人にスタッフ2人いると、1人が子どもと遊んでいるときに除菌できるので助かる。保育スタッフは多めに配置してほしい。

など、各会場からさまざまな報告がありました。

いつもなら、グループごとの情報交換に忙しいにぎやかな会ですが、今回は研修もかねての静かな交流会となりました。寒くなり、感染の拡大もみられる中、「マスク、3密対策、手洗い・うがい、換気」をお守りとして、感染防止対策への緊張感をもって保育に臨むことを確認できました。

また「保育サポート バンビ」では、当日参加できなかった保育スタッフにも、書面での研修を徹底しています、と報告がありました。



# 委員会活動を紹介します！

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、多くの委員会が、3密を避ける、マスク着用、検温などの「新しい生活様式」に沿って、企画開催しています。様々な企画を通して活動する様子をお伝えします。

## プラスチックの海洋汚染ってなあに？

10月29日

狛江委員会

「毎年800万トンのプラスチックが海に流出し、このまま続けば、2050年には魚の量を上回る」パルシステム東京の職員を講師に、深刻化するプラスチックの海洋汚染と、生協の削減取り組みについて学習。

講座では、東京の海岸から採取した砂に含まれるマイクロプラスチックを観察し、汚染の状況や動物たちへの影響を動画や画像で確認。また私たちの暮らし方も、海洋汚染に無関係ではないことを学びました。

参加者からは「説明がわかりやすかった」「実際のゴミや被害を見て、深刻な状況が実感できた」「自分の生活を見直した」などの感想が上がりました。



細かくなったりしたプラスチックが、水の中でどうなるか？のデモンストレーションも好評でした

## 災害時にどうしたらしいいの？

11月27日

スローライフれんげの会委員会

2019年の台風19号の経験を生かし、風水害対策を見直した大田区。大田区役所防災危機管理課の長沼さんから、改正後の災害対策を聞きました。

災害発生当時、水害での避難場所の周知不足、区のホームページが閲覧不能に、情報を伝えられない人の対応など、浮き彫りになった様々な問題を地域と連携しながら改善。改定されたハザードマップを見ながら、参加者の住まい周辺の状況、避難時の家族の連絡方法や避難のタイミング、情報収集の方法、食料や水の備蓄など、自分と家族の命を守るためにすることを確認しました。「あの時怖い思いをしたのでとても参考になった。早速家族で話し合おうと思う」の声が。



窓ガラスの飛散防止方法は？マンション住まいは避難場所に行ってもいいのか、など活発な質疑が交わされました

## 献立力UP講習会

11月26日

光が丘委員会

調理ができなくても実施可能な料理企画を考え、人材バンクの藤岡さんを講師に、机上の料理講習会を開催しました。

藤岡さんの調理のポイントは、冷蔵庫にあるもので作ること。そのために必要な料理のバリエーションを増やすコツを学びました。参加者の家にある調味料などをリストアップし、味付けを考えます。かぶや大根など、なかなか調理法が思いつかない野菜を、生、茹でる、蒸す、煮る、炒める、焼く、揚げる、のバリエーションで、メニューを考えます。「献立の考え方やアイデアを知ることができうれしい」「固定観念が破れた！」と大好評でした。



同じ野菜でも調理方法や味付けを変えるだけで違う料理にできることを知り、目からうろこでした！

## 本所防災館でVR体験をしてみよう！

12月1日

池尻委員会

いつ起きててもおかしくない首都直下型地震や風水害。いざという時に落ち着いて行動できることが重要だと、VR（バーチャルリアリティー）が体験できる本所防災館で様々な災害を体験しました。

はじめに、自助、共助の事例が紹介され災害に備える映画「君の命を守りたい」を鑑賞。浸水状態のドア開放、煙が充満する中での避難、人命救助などを体験。

VR体験では、VR用ゴーグルを装着し、前後左右に動くシートに座り、自宅での地震発生時と車運転時に豪雨に遭遇したケースを現場にいるようなVRで疑似体験。「今日学んだことを生かして、家や周囲の安全を再点検しようと思う」と委員長は話しました。



初めてのVR体験では360度の立体映像や、シートからの振動でよりリアルな状況を体験できました